

拠点づくりを契機とした地域再生の課題と可能性

長崎大学工学部 学生会員○田村 強起

長崎大学大学院工学研究科 正会員 石橋 知也

1. はじめに

1.1 研究の背景と目的

長崎県東彼杵郡東彼杵町では、人口減少、少子高齢化が年々顕著となっている。こうした過疎地域としての問題を抱える東彼杵町でも、「地域規模に適した」取り組みに携わっている事業者の方も多く、中でも千綿地区は全国から足を運ぶ来訪者が後を絶たない。

移住先や観光先として選ばれる地方都市となるための地域づくりが今後も様々な地域で展開されることが期待される。しかしながら、地域活動のための課題や方法論など、今後の地域づくりに資する研究の知見の蓄積には未だ不十分な状況といえる。

本研究では、上述した千綿地区での実践例を取り上げ、取り組み内容や経緯等を調査し詳述する。さらに、その内容から地域の規模に適した地域づくりを進めるための今後の課題と可能性について考察することを目的とする。

1.2 研究の進め方

本研究は以下の手順で進める。1)千綿地区での地域づくり活動の中心的人物である森一峻氏を対象に、今まで推し進めた事業の内容についてヒアリングをおこない、内容を整理する。2)森氏とのヒアリング内容をもとに、各関係者についても同様に事業の詳細等についてヒアリングをおこなう。3)全てのヒアリング内容をもとに時系列で表した関係図や他共同体との関係性を整理する。4)整理内容から今後の地域づくりの課題と可能性について考察する。

2. 予備調査

千綿地区での地域づくり活動は、長崎新聞や九州電力など多方面から一定の評価を受けている事例と言える。令和3年2月に森氏が代表理事を務める一般社団法人「東彼杵ひとこともの公社」とともに地域再生大賞から、地域の未来賞兼九州・沖縄ブロック賞を受賞している。また、九州電力による新事業初期費用出資・支援のための「Q でんにぎわい創業プロジェクト」において協働団体に選出され、地域活動における資金運用の参考事例にもなっている。

3. 森氏へのヒアリング調査

ヒアリングを通じて、森氏の地域活動の内容を【1】拠点づくりおよび組織づくり、【2】新規店舗の開業、【3】共同商品開発に分類し2021年までの地域活動を時系列で整理した(図1)。

3.1 拠点づくりと組織づくり

地域活動のきっかけづくり、仕組みづくりのために拠点となる場を作ることは重要である。農業協同組合が元々所有していた米倉庫が取り壊されることになったため、取り壊し中止の交渉をおこなう(2013年)。地域住民・議員への説明会をおこない、地域住民参加型の改装ワークショップを開催する。2015年に地域情報発信拠点・交流拠点として Sorriso riso をオープンさせる。Sorriso riso 計画段階時には Nagasaki Project 協議会という団体名で活動しており、一般社団法人東彼杵ひとこともの公社(以下、公社)はその後身として設立された団体である。各個人が出資する資金にも限度があったため、法人化することで活動にかかる資金が経費として扱えるようになった。Nagasaki Project 協議会としての活動時に受けた支援金は、東彼杵町まちづくり支援加速化交付金、地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金等が挙げられる。また、東彼杵町の単年度予算から貸与という形式で補助を受けている。公社が地域再生大賞を受賞したことを受け、貸与額の半分を東彼杵町が負担する流れとなった。

3.2 新規店舗の開業

東彼杵町への移住者が飲食店や宿等の自営業をスムーズに始められるよう、古民家の改修イベントの開催や事業開業の試験場所としてチャレンジ出店という形で Sorriso riso を提供した。

3.3 他団体との共同商品開発

図1にあるくじら焼きは九州電力と協業で開発された商品であり、構想から約1年をかけ、事業化が決定した。尾崎カヌレは、川棚町の和洋菓子屋「菓舗いさみ屋」から森氏が依頼を受け、新プロジェクトとして開発された。

西暦(和暦)	出来事	位置	【1】	【2】	【3】	フェーズ1				フェーズ2		フェーズ3		
						2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
	Nagasaki Project 協議会		●											
2010(H22)	移動電気販売者 コムス 長崎県初導入													
2013(H25)	映画 ふるさとがえり 自主上映 実施													
2014(H26)	移動販売車 安心お届け便 長崎県初導入													
2015(H27)	Sorriso riso 千綿第三瀬戸米倉庫	1	●	●		構想立案 ▲-----●2015.12月OPEN								
2016(H28)	小玉デザイン制作室＆千綿写真室			●										
2016(H28)	千綿食堂 千綿駅	2		●		2016.4月 チャレンジ出店 ○-----●2016.12月OPEN								
2017(H29)	自家製酵母パン ちわたや	3		●										
2017(H29)	ミドリMB			●										
2017(H29)	一般社団法人 東彼杵ひとことの公社		●											
2019(R1)	海月食堂	4		●		2016.7月チャレンジ出店 ○-----●2017.8月OPEN								
2019(R1)	さいとう宿場	5		●		▲空き家バンク生活・改-----●								
2019(R1)	Gonuts Antique & Supply	6		●										
2019(R1)	株式会社 碾茶工場 Forthees			●		●2019.4月OPEN								
2019(R1)	Little Leo フレンチレストラン	7		●		▲改修-----●2019.3月OPEN								
2019(R1)	和洋創作料理店 多々楽			●		●2019.7月OPEN								
2019(R1)	髪処くぼた			●		●2019.5月OPEN								
2019(R1)	雑貨店 きょうりゅうと宇宙			●		●2019.7月OPEN								
2019(R1)	革製品・卸問屋 tateto			●		凡例 ▲…構想開始 ●…オープン ○…Sorriso risoでのチャレンジ出店								
2020(R2)	くじらの髭(Sorriso riso千綿第三瀬戸米倉庫内2号室)		●											
2021(R3)	くじら焼き 商品開発				●									
2021(R3)	CHANOKO号 開業	8		●		事業検討 ▲-----●2021.3月OPEN								
2021(R3)	いさみ屋 尾崎カヌレ	9			●	事業検討 ▲-----●2021.10月販売開始								

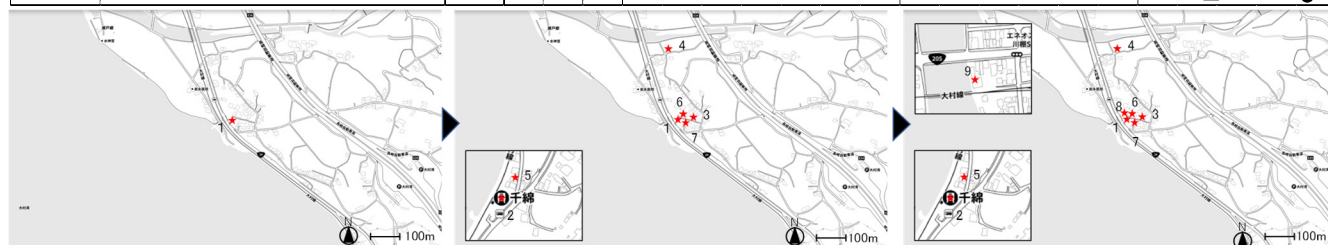


図1 フェーズごとに分類した地域活動

表1 開業した経営者へのヒアリング結果

	経緯	森氏との関係性	資金
さいとう宿場	・東京から移住先を探し、様々な都市を回った結果、偶然通りかかった東彼杵町に惹かれ、移住を検討。 ・空き家バンク ¹⁾ という制度を知り、移住を決める。 ・東彼杵町には民宿がなかったため、元旅館だった空き家を借りれるか検討していた。	・森氏が主催するちわたやの改修イベントに妻と参加したこときっかけ。 ・空き家バンクで生活していた場所から、宿場への引越しの手伝いをしてもらった。 ・一般社団法人「東彼杵ひとことの公社」の理事を務める。	・改装資金は貯蓄から ・元旅館だった民家を改修し、賃貸という形で経営している。 ・東彼杵町まちづくり応援補助金要綱第3条 ²⁾ 、浄化槽設置等資金貸付事業より補助を受ける。
フレンチレストラン Little Leo	・店舗兼家になるような場所を探していた。地域に密着したレストランをしたいという思いがあった。 ・東彼杵が空港から近いという利便性の良さに魅力を感じた。 ・孤立した場所のレストランを開くよりも周辺に様々な店舗があることで協力しやすいという良さ。	・森氏は元々地元のセブイレブを改革したことで顔馴染みではあった。 ・古民家をレストランとして改修するワークショップイベントを発信してもらった。 ・一般社団法人「東彼杵ひとことの公社」の理事を務める。	・改装資金は貯蓄から ・経営している古民家は空き家バンクを利用したもの。 ・東彼杵町まちづくり応援補助金要綱第3条、浄化槽設置等資金貸付事業より補助を受ける。
海月食堂	・大震災後、子供のことを考え、新しい場所へ移住を決める。 ・東彼杵の夏休み ³⁾ という共同合宿に参加したことがきっかけ。 ・共同合宿後に何家族かで古民家シェアハウスを町が行い、定住する。 ・その後空き家バンクを利用する。	・弁当製菓販売を行っていた時期にSorriso risoができたため、チャレンジ出店という形で置かせてもらった。 ・改修の手伝いをしてもらった。	・資金を借りて、改装を行う。 ・店舗は賃貸で経営している。 ・菓子製造をしていたため製造場所を町の空き店舗等活用促進事業の事業区分・空き店舗等改修事業 ⁴⁾ から補助金を得る。 ※当時と現在で補助金限度額に変更有り

4. 各関係者へのヒアリング

各経営者へヒアリング調査をおこない、東彼杵町で自営業を始める経緯・森氏との関係性・資金面に分類し、調査結果を表1に示す。調査より、東彼杵町に移住してきた事業者は東彼杵町の制度である空き家バンクを利用して、事業を展開している。森氏との関係性においては公社との関わりが大きいこと、改修支援といった共通性がみられる。資金面は大半を自費で賄い、東彼杵町からの補助を受けていることが分かる。

5. 店舗の展開状況

図1より、Sorriso risoが拠点として稼働するまでのフェーズ1の期間がフェーズ2以降の新規開店の準備期間として寄与していると捉えられる。さらに新規開店が盛んとなるフェーズ2では公社の設立がそれを加速させていることも窺える。フェーズ3となり、拠点や店舗を足掛かりに商品開発へとシフトしつつあることが分かる。

今後は、他団体との商品共同開発について分析し、その関連性の可視化等を通じて考察を進める。

参考文献：

- 1) 空き家物件一覧/東彼杵町 <https://www.town.higashisonogi.lg.jp/soshiki/machizukurika/1/5/240.html>, 2) 東彼杵まちづくり応援補助金要綱 https://www.town.higashisonogi.lg.jp/section/reiki_int/reiki_honbun/q325RG0000548.html, 3) 東彼杵の夏休み <http://higashisonogi.sokai.blog.fc2.com/>, 4) 空き店舗等活用促進事業 <https://www.town.higashisonogi.lg.jp/soshiki/machizukurika/1/2/238.html> (上記は2021年12月26日に確認)